

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300038		
法人名	株式会社 VAN		
事業所名	海に見えるグループホームしおさい		
所在地	山口県山口市秋穂西 3317番地 の 1		
自己評価作成日	2010/11/29	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれ、空間が広く、24時間静か。地域の協力を得て、「しおさい祭り」を行っている。近隣の方が入居されているので、近所の方々が時々面会に来られる。イベントを行う時には、2ユニット間の仕切りを取って、大広間にする。普段、入居者も職員も、ユニット間を行き来している。2ヶ月毎に発行している「しおさい便り」には、入居者の生活の見える写真を掲載しており、御家族に好評。時々、職員による、ピアノの生演奏で、昔の流行歌、唱歌、童謡をみんなで歌う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気大切に、三食とも事業所で食事づくりをしておられます。利用者は調理、後片付けなどできることを職員と一緒に、会話をしながら職員も一緒に食卓を囲んでおられます。誕生日の利用者の希望で外食をしたり、お菓子づくりするなど、食事が楽しみなものになるように支援しておられます。ピアノ演奏に合わせて懐かしい歌を歌ったり、散歩、ドライブなど、気晴らしや張り合いのある暮らしができる様に支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示はしてあるが、なぜ、この理念になったのか等の事業所としての思いや、意味まで周知していない。文面が長すぎて判りづらい。玄関、台所、事務所に掲示。	理念を事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載して周知を図っている。管理者と職員はミーティング等で理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に一度のしおさい祭りと散歩にとどまる。散歩も日常的に出られず、交流は少ない。	老人会や御大師さん参りに参加したり、毎日の散歩時に地域の人と会話を楽しんでいる。地域の人々の協力を得て避難訓練やしおさい祭りを開催するなど地域の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員はホームの中だけにとどまる。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今回初めて全項目に全職員が目を通し記入、集計した。が、職員個人の評価につながる、とのことで、実践していないと書けない職員や、自分の意見を出せない職員もいる。	自己評価は、全職員が項目に記入し、管理者と計画作成者でまとめている。職員は介護の反省の機会となったと捉えている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の会議で報告がある。そこでの意見が活かしているか、具体的には不明。	2ヶ月に1回開催し、利用者の現況報告、行事報告、外部評価への取り組み状況等について報告し、意見交換してサービスの質の向上に努めている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、ケアマネはあるかもしれないが、職員に情報は降りてこない。	介護保険課、地域包括支援センターと情報交換を行い、日常の相談にも応じてもらっている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを見たり、話し合ったりして取り込んでいる。危険防止の為やむをえない場合等、家族に連絡をしている。(理由の説明) 玄関のカギは道路に面している為、常にかけてるが、庭の方は希望時開放している。	マニュアルを活用して話し合い、職員は、身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルは置いてある。 全員が法等について学ぶ機会は持っていないが、防止には1人ひとりが注意を払い、努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同上 必要性の話合い等は行っていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付体制として箱は設置しているが用紙、ペン等が無い。一部の家族より電話や面会で意見、要望を受けることがあり、職員間で話し合い、意見交換することはある。外部者へ表せる機会は設けていない。	運営推進会議や家族の来訪時に意見や要望を聞いている。苦情相談窓口、担当者、外部機関を明示しており、苦情処理の手続きも明確化している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を聞く機会としては設けていないが、職員から持ちかければ聞いてもらえる。 反映されるかどうかは内容にもよる。最近、毎日ミーティングが少なく、毎日やりたい。	週1回のミーティングに代表者が参加して職員の意見を聞く機会がある。管理者は毎日のミーティング時に職員からの意見や提案を聞く機会を設けており、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	他職場では見られない、職員に対しての心使い等があり、感謝の声がある。日常的に管理者、職員同士での意見交換があったり、又、注意等しあい、勉強になっている、との声もあり、割と皆が「良くしよう」と意識している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望は多いが実施が非常に少ない。内部研修も特に行われておらず、ケアの仕方も職員個人のやり方で良いとされている。外部からの情報も入らない為、具体的なケアの仕方に案が出ないことが多い。各自の休みを利用しての外部研修も難しい面があり、差が出てくる。	併設の法人内研修に参加している。勤務の一環としての外部研修への参加が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の機会の確保 ・研修情報の把握

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	希望は多いが実施はない。(職員の数からも研修等シフトを組むのが困難)そのため他施設の情報も入らない。同業者への訪問は個人では難しい面もあり、スキルアップを望む職員は各自で講習に参加したり、本などでの独学にとどまる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり座って話を聞く、安心できるような声かけを行う等、その人のペースで早く雰囲気になじんで頂ける様努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話連絡やお手紙で、日々の様子等お伝えしたり、要望等の聞きとりなど、意識して努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面接等行っているが、家族、本人が今必要なサービス(当施設に限らず)の紹介までには至っていない。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に家事を行ったり、又、手伝って頂いたり、支え合う関係にある。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各担当で小さな事がらでも報告する様心掛けてている。最低でも6ヶ月毎のケアプラン送付時には簡単に手紙を添えご本人の様子等報告し、困った事や相談にもものれる様、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族と電話で話されたり、行きつけの美容院へ行ったりされる。	友人や知人の来訪、利用前からの地域の会合や通い慣れた店、美容院等に行く機会を設けている。家族との外食や正月の外泊、ドライブ等馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中同じホール内で過ごされる事が多く、会話を楽しまれている。1人で過ごしたい方もあり、参加の無理じいはしていない。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	個人的にお見舞いに行く程度で、相談・支援までは行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当を中心に検討している。又、把握に努め、会議でも一人ひとりについて話し合っている。	日々の会話等で利用者の思いや意向を把握に努め、介護記録に記入し、月2回のミーティングで各担当を中心に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や前サービスの人に聞き取りをしたり、日々の会話などから、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握には努めているが、実際にはテレビ視聴時間が長い。 レクリエーション等も個別に行うのが難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成前には全職員から意見を聞き、担当と検討している。 家族にも要望等意見を聞ける様、郵便物も出す様にしている。	管理者、利用者の担当職員を中心に、短期目標は6ヶ月、長期目標は1年で見直し、家族や利用者の意見を参考にしながら介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録をもとに、情報収集、職員間で話し合いをして計画の見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応できていない。食事や入浴、機能の低下に対応できずそのままになっている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事にもっと参加したい。 現状では、お大師参りのみ。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	山口アレルギー呼吸器病センターをかかりつけ医とし、隔週で訪問診療を行い、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関から隔週で訪問診療もあり、かかりつけ医の定期的受診など、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職が無いので、訪問診療日のみ医療の相談ができる。元看護師(1人)に診てもらう事が多いが、休みの日や、緊急の時を思うと、常に不安はある。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後の対応等についての相談や連携に努めるが、情報が不足していたり、夕刻になつての退院(入居時も同じ)も多く、すぐに夜勤帯に入ってしまう、職員は不安なまま夜勤に入ることが常。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針等、家族にどう説明しているのかを、共有していない。又、主治医からの具体的なケアの指示等必要と思われる事も、はっきりした返事をもらえず、「工夫してください」や「何かあったら連絡してください」と言われるにとどまり、職員によっても事業所のできる事や、方針が共有できていない。	重度化した場合における話し合いの場を、主治医、関係者や家族ともつようにしており、事業所として出来る限りその人の思いに寄り添うよう心がけている。職員全員の方針の共有までは至っていない。	・職員全員の方針の共有
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	定期的な訓練は無い。 事故防止には日常的に話し合い取り組んでいる。 ヒヤリハットや事故報告の活用ができていない。	事故防止マニュアルや緊急対応マニュアル、緊急連絡体制づくりが不十分である。応急手当や初期対応の定期的な訓練は行われていない。	・ヒヤリはつと・事故報告書の活用 ・応急手当、初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については避難訓練実施。 災害時の避難方法や、避難場所については全職員に周知していない。	年2回(夜間想定を含む)避難訓練を行っており、地域住民の参加もあり、防災についての協力を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々気を付けて対応しているが余裕がないとき等、声かけや対応にムラが出る事がある。プライバシーの確保は難しく、自室が分からない方など、他室に入ってしまったたり、使用中のトイレにも入られたりと、トラブルになる事も多い。	利用者の尊敬の念については事業所の基本理念の中にうたい、職員は日々気を付けて対応している。言葉かけや対応で難しいこともあるが研修などはしていない。	・ミーティングや研修での徹底
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話を通して希望を聞きだす事、又、その時には自由に過ごせるよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中で、ある程度支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は各自管理されており、好みの服に着替える事ができる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切りが得意な方、盛り付けが得意な方と、一緒に行っている。同テーブルと一緒に(職員も)食事をしている。	三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は調理、後片付けなどできることを職員と一緒にして、職員も同じものを食べながら会話をし食卓を囲んでいる。誕生日の利用者の希望で外食をしたり、お菓子作りをするなど、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しむ事が出来るように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の能力を考え、食事介助を行ったり、摂取量をみて高カロリー飲料を補ったりしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの状態に合わせたケアの支援をしている。確実に職員が確認し、チェックを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれに応じた対応をしている。排泄表を活用している。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれに応じた予防に取り組んでいる。水分補給や運動など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯については、集団生活の中である程度の希望は聞いている。個々に応じた入浴の支援は難しく、シャワーのみの方や、清拭のみの方もいる。	入浴は毎日可能で、14時～17時までの間に一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には、タイミングを見計らったり、時間をずらすなど工夫しながら支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの体調や生活習慣に合わせて、できるだけ日中活動をすすめ、夜間安眠できるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各担当を中心に、薬の変更があれば記録に様子を書く等、皆で共有できるよう努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各担当で工夫して取り組んでる。	掃除、洗濯物たたみ、生け花、草刈、計算ドリル、貼り絵、ぬり絵、ピアノに合わせて懐かしい歌を歌うなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎回の希望にはそえないが、ドライブや買い物へ出かけられる。	天気の良い日には散歩をしたり、ドライブは利用者の通い慣れた旧道を通ったり、買い物、外食、ピクニック、季節の花見(コスモス、菜の花等)など、外出を楽しめる支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解も得た上で、所持されている方もある。買い物では、自分でレジを通る支援も行う。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、電話の使用や手紙をかく支援も行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた絵の掲示や折り紙など工夫している。夏季には温度湿度の調節が困難。	共用空間には、行事の写真や季節に応じた絵や折り紙などを展示して、利用者同士が楽しく、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所ですごくされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族への都合もあり、使い慣れた物のもちこみは少ない。	利用前に家族と話し合い、人形や布団等持ち込み、利用者の混乱を防いだり、安心して過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる事」を職員がやってしまうように気を付けて対応している。		